資源循環に挑む 現場ルポ

宮川支店長

大型解体で「第2ステージ」

扶和メタル・東京ベイ

本稼働2年、船積み迅速化

【特長】関西で成長してきた鉄スクラップ加工販売大手の扶和メタル（本社＝大阪市、勝山正明社長）が関東で展開する主力拠点の一つ。2023年1月に鉄スクラップの船積み・加工拠点として本格稼働を開始した。敷地面積は5万平方㍍と関東最大級。3万㌧積みの大型船舶をヤードに着岸させることができる。150㌧級の吊り上げ能力を持つ大型移動式クレーンに6本の「指」で鉄スクラップをつかむグリップ式のアタッチメントを付け、荷役する。国内最大クラスのホイールローダーも活用して「公共岸壁の荷役の約2倍のスピードで船積みできる」（宮川整支店長）ざい。2000㌧圧の切断機を備え、加工能力も十分だ。

大型移動式クレーン㊧、国内最大クラスのホイールローダー

【展望】「単純なシッパー業ではなく、ここでしかできないことをやる」（宮川支店長）とそう力を込める。トレーラーに積み込めない大型の鉄鋼製品を鉄スクラップ輸出先が東アジアから東南アジア以西へ遠方化するに従って貨物船が大型化している。1船に積む量を多くすることで海上運賃（フレート）を安く抑えられるとのメリットもある。東京ベイでも2月、インド向けに1万1000㌧の鉄スクラップを船積みし、大型船積み拠点としての強みを発揮した。

支店長は、「当初は月間2万5000㌧を目指していたが、横持ちなどさまざまな作業効率を考えると、必ずしも量だけを追わなくてもいい」と話す。【展望】「単純なシッパー業ではなく、ここでしかできないことをやる」（宮川支店長）とそう力を込める。トレーラーに積み込めない大型の鉄鋼製品を鉄スクラップ母材を同時に獲得し、利益増を狙う考え。「本格稼働から約2年稼働し、加工・船積みなどの事業でヤードがある程度回るまで運営できた。今後は大型構造物の解体を通じて『第2ステージ』に向かう」。

近年、日本の鉄スクラップ輸出先が東アジアから東南アジア以西へ遠方化するに従って貨物船が大型化している。1船に積む量を多くすることで海上運賃（フレート）を安く抑えられるとのメリットもある。東京ベイでも2月、インド向けに1万1000㌧の鉄スクラップを船積みし、大型船積み拠点としての強みを発揮した。

一方、千葉県で鉄スクラップのヤードを運営するにあたっては「近隣の（高炉メーカーとの付き合いも大事になっていく」と言及する。

適正ヤードの能力を生かし大型船の輸出案件を今後も追いかけるとともに「品質管理の強化や環境への配慮も怠らない。いかにヤードを効率良く回していくかという点にも注力する」（松井 健人）

【概要】
▽所在地＝千葉県柏ケ浦市中初10-2
▽月間取扱量＝1万5000㌧
▽主要設備＝150㌧クローラークレーン1台、スクラップローダ6台、2000㌧圧の切断機1台
▽従業員＝15人（営業3人、事務2人、現場10人）